

戸台周辺アイス(上ニゴリ沢・駒津沢)

日程：1月7日(金)夜行-10日(月)

メンバー：井上(哲)・上坂・佐藤

7日 22:00 南林間駅-22:30 上坂宅-1:30 南アルプスむらはせ(仮眠)

雄大がバスに乗り遅れ、30分ほど遅れて出発となった。

8日 6:00(起床)-8:00(戸台駐車場)-10:00(出合)-11:20(上ニゴリ沢)-16:50(出合)-18:20(丹溪山荘)

先週も正月合宿で来たばかりの戸台へやってきた。今日は足慣らしとして上ニゴリ沢でアイスの練習だ。

戸台川をたんと歩き上ニゴリ沢へ向う出合で、荷物をデポした。

上ニゴリ沢に詰めて行くガレ場は雪も少なくかなり歩きづらい。

以外と距離もあるもんだ。しかし、一番ショックだったのは、期待

した氷瀑規模が小さかったことだ(図1)。取り合えず、上坂リードで

取付くが右上気味に登り直上しようとするが、途中で右アイゼンが

外れかかる。そして、何か調子が上がらない。そこから直上するの

だが、嫌な感じもして更に右に逃げ込んで草つきを上がった。南アルプ

ス林道のガードレールで解除の声をかけた。雄大・井上さんも上がって

きた。2ピッチ目(図2)もかなり薄く、とても登る気になれず。そして、

登れなかった下の直上ラインをトップロープで雄大がチャレンジ。ずぶ

濡れで上がってきた。

テンションも上がらず、結局このまま降りることにした。下降は同ルー

トとせず、少し先のポイントから懸垂で降りたが、出だしはよかったも

のの以外と悪く、途中も懸垂も入れての下降で時間がかかった。途中に

氷瀑もあった。出合でデポを回収して、18時20分過ぎに丹溪山荘に着

いた。

既に2人組パーティーがいて、挨拶など交わした。

9日 4:00(起床)-5:50(スタート)-7:30(F1)-13:50(間違いポイント)-15:50(小尾根)-

17:45(双児山)-18:35(北沢峠)-19:50(丹溪山荘)

図3



前日の遅れもあって、少し寝不足気味である。丹溪山荘にデポして行くが、初めての駒津沢ということもあり、ビバークも考慮して井上さんにガスセットも持ってもらった。ヘッドンでのスタートではあるが、トレースもありそのまま進んでいける。順調に本谷 F1(五丈ノ滝：図3)まで辿り着く。なかなかの大きさだ。

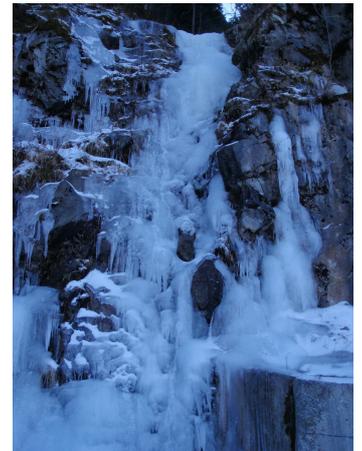
本谷 F1(五丈ノ滝)

図1



上ニゴリ沢下部全体

図2



2P目の滝

本谷 F1(五丈ノ滝)：上坂リードで取付く。左側にある凹角の優しいラインを選んだ。多少苦戦するところもあったが、氷結もあまいところもありピックもよくささる。無事に抜け、後から雄大・井上さんも上がってきた。

そのまま詰めていくと今度はF2と思われる滝が見えてきた(図4)。

遠目でも真ん中がかなり薄いようだ。さらに近づいていくとエイリアンの頭のように薄氷状態だった。登るなら左側からしかないなと思いきや、なんと下は滝つぼ。右からへつり、右側をせっせと登ることに。そして、上部あたりでお土産を頂いた。落ち口に着くと、氷を壊してしまい、登攀ラインに水が流れ始め、どんどん勢いが増してきた。下からもこれはやばいとの声。一旦、直ぐ上の支点で確保して戻り修理工事を始めた。雪をかぶせ何とか止まってくれた。

図4



下は滝つぼ

ここから少し先(右側)に大滝が見えてきた。思わず『おお〜』という規模だ。

駒津沢 F1(大滝)：井上さんにリードするか聞いてみるが、この先の滝でいいよとの返事。しかし結局この先でロープは出さず(笑)。上坂リードでいく。全体的に階段状になっているので、さほど難しくは

なさそうだった。注意していたのは、どのあたりでピッチを切るかだ。登っていくと途中にはあまりいいところがなく、名一杯伸ばしたあたりの左側松の木(図6)を利用した。一旦、氷瀑から離れるので、草つきにピックを打ち込みながらトラバース。以外と悪い。

図6



支点で確保して、ビレイ解除。まず雄大が登ってくるが、手が冷えていて、何度か温めていた。ビレイ点までくると、この草つきトラバースが一番悪いと言っていた。井上さんも続いてやってきた。そして、2P目は、木登り状態で直上

しようとするが、厳しい。一旦、トラバースすること



図5



駒津沢 F1(70m)

とした。数メートルとはいえ、やはりアイスのトラバースは緊張する。そして直上していくと、まもなく平らになり、しっかりとした倒木で終了点とする。

この先で小さな滝も出てくるが、そのまま進んだ。ガレ場など詰めて行き、しばらく行くと左側に直瀑に近い 35m ほどはありそうな滝が出現(図 7)。若干 2 段になっているかといったところ。これは登れそうもないし、ルートとも違うと思ってしまった。とにかく威圧感のある滝だ。来年チャレンジしようと話した。

図 7



この少し先で、二股になっていた(図 8)。

後で反省するのだが、なんとなく勘で右側へ進んでいった。岩壁の基部を詰めて行き、更に進んでいく。傾斜も強くなり、木を掴んだりアックスを打ち込んだりの連続だ。

途中、雄大が掴んでいた灌木が折れ、ずり落ちてきた。咄嗟に別の灌木を掴み、止まった。止まってなければ、ちょっとやばかった。また、かなり緊張を強いられるところもあったが、ロープなど出さずに済んだ。だいぶ進んだところで、稜線と思われるところが見えてきた。「井上さん、もうすぐ稜線ですよ～」と、声をかける。しかし、それは間違いであった。地形がおかしい。更に 300m 近くはありそうな上部に頂もみえる。高度計でも稜線近くを示しているのに…。これもきちんと高度校正かけてないことを反省。正月合宿では、こまめに合わせておいたが、気が抜けていたのか、合わせてなかった。しかも時間は 16 時近く、陽が落ち始めている。とにかく稜線に抜けるしかない。一部、岩場らしき辺りも見えるので、なんとか明るいうちに進みたかった。ラッセルを繰り返しながら、ひたすら進んだ。小動物などのかすかなトレースが目につく。ピークと思われるものは、手前の小ピークで何度もまだ先かと呟いた。ヘッデンとなった。雄大が先頭するとき、やっと双児山のピークに出た。雄大も叫んでいた。

ここで、小休止する。「正月合宿に参加できなかった井上さんのプチ合宿となったね」と笑った。後は、ひたすら下山するのみ。北沢峠経由で丹溪山荘を目指した。20 時あたりに到着したが、今日はだいぶ賑わっていた。夕飯がうまい。今日のネタで飯を食った。「明日はゆっくり起きて、下山するか!!」。全員一致だった。



双児山にて

